

中国の基準金利引き上げについて

Raku
Yomi

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

中国人民銀行(中央銀行)は19日、金融機関の貸し出しと預金の基準金利(期間1年)を20日から0.25%引き上げると発表しました。引き上げ後は、それぞれ、5.56%、2.50%になります。基準金利引き上げの主な背景としては、中国の力強い成長に伴う「インフレ懸念の台頭」および「資産市場の過熱に対する警戒」が挙げられます。

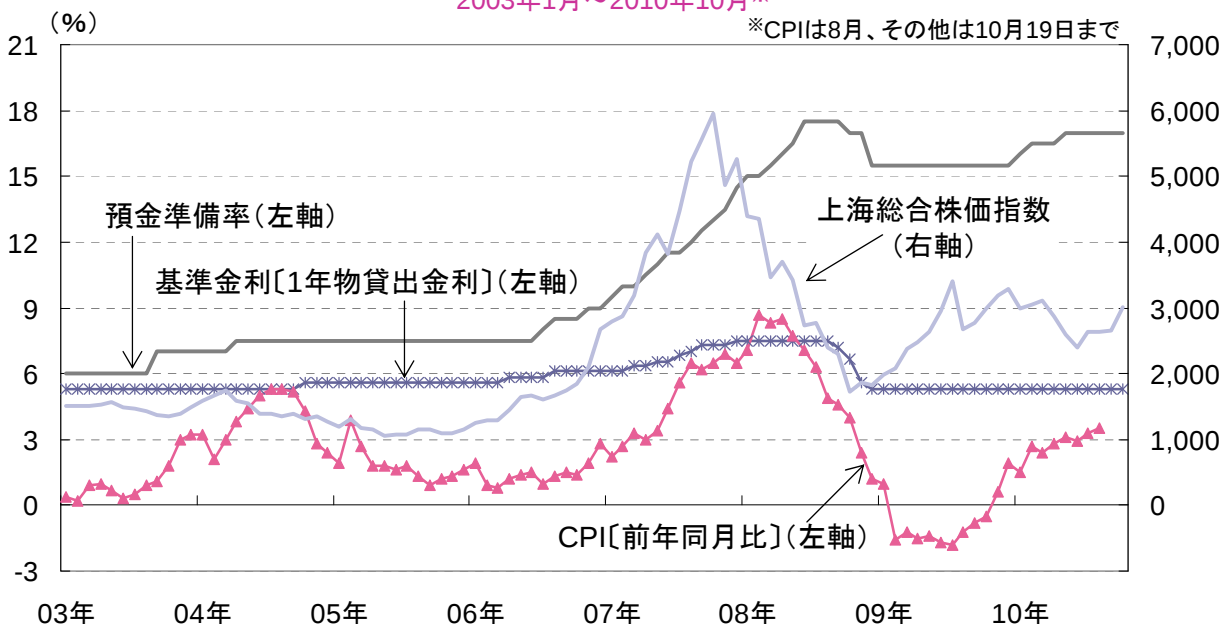
中国当局は、資産価格の過度な上昇に歯止めをかける目的で、今年に入ってから段階的に預金準備率を引き上げ、資金を吸収することによって銀行の融資抑制を図ってきました。それにより、資産価格の上昇に一旦は歯止めがかかる傾向が見られましたが、9月に主要70都市の不動産販売価格が前月比で4ヵ月ぶりに上昇するなど、再び上昇する兆しが見られます。さらに、8月のCPI(消費者物価指数)は前年同月比+3.5%となり、21日に発表される9月の数値も同+4%程度が見込まれていることなどから、基準金利の引き上げに踏み切ったとみられます。

中国の基準金利引き上げを受け、金融市場では、短期的には、中国の景気減速と世界経済への悪影響が警戒される場面があるとみられます。また、今後も、インフレや資産価格の上昇などによっては、利上げが継続される可能性があります。しかし、当局には、経済成長の軌道を腰折れさせる意図はなく、むしろ、インフレや資産市場の過熱を抑えることによって、中国の持続可能な経済成長の実現につなげることを目的としています。そのため、こうした当局による一連の金融引き締めは、株価や商品価格の中長期的なサポート要因と捉えることができそうです。

上海総合株価指数と基準金利、CPIなどの推移

2003年1月～2010年10月※

※CPIは8月、その他は10月19日まで



なお、預金準備率は、10月に大手行を対象に、0.5%引き上げられ17.5%となったと広く報道されていますが、当局の公式発表はないため、グラフには反映していません。(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。